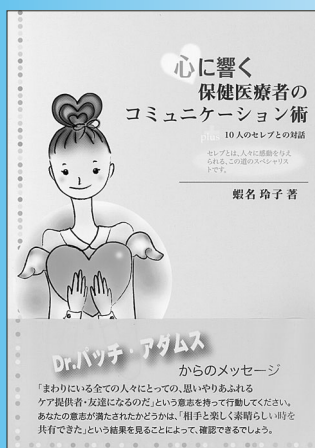


大きな夢の花を咲かせる種

【評者】渡邊多恵子 茨城県石下町総合福祉センター保健課

心に響く 保健医療者のコミュニケーション術

蝦名玲子(著)



定価 1,470 円(本体 1,400 円+税 5%)
B6判, 240 ページ
英潮社 (Tel.03-3263-6171)

喜び、驚き、悲しみ、怒り、嫌悪、恐れ…。人間の感情は、言葉では表現しきれないほど多様であり、私たち人間は、毎日、その感情とともに生きている。それは自分だけのものであり、よい感情、悪い感情などと区別できるようなものではない。むしろ、見つめることで、大切なことを自分自身に伝えてくれるものであるはず。それなのに、日頃の保健活動のなかでは、自分のネガティブな感情に対して、否定的になってしまうことが少なくない。

たとえば、住民と向かい合うなかで、相手からの相談が重くつらい内容であればあるほど、その相談に困惑し身動きがとれなくなったりすることはないだろうか。あるいは、職場のなかで不満を感じたとき、その不満を誰にも言い出せず、自分の思いを押しつぶしてしまったりすることはないだろうか。私には、そんなことがよくあった。先に進まず堂々巡りを繰り返す相談活動のなかで無力な自分を見せつけられて自信をなくしたり、誰にも言えない不満をかかえたまま、ノンアサーティブで、ときにアグレッシブになってしまったり自分に嫌気がさしたりした。

そんなときに出会ったのが、著者の連載「健康生成志向で考える、あの人の口説き方・落とし方」(『保健師ジャーナル』2004年1～12月)だった。この連載は、私のなかの悶々とした悩みを言葉にして語り、紙面上でそれを解決するコツを教えてくれた。「私の感じている悩みの多くは、コミュニケーションが解決してくれる!」ヘルスコミュニケーションのスペシャリストである著者は、自分の感情も相手の感情も大切にコミュニケーション、よい側面を広げていく健康生成志向のアプローチの術を、具体的に明確に伝授してくれた。悩みの解決にとどまらず、心が響きあい、魅力ある保健活動を展開するためのヒントに満ちあふれた連載だった。

そして今回、その連載に、「10人のセレブとの対話」が加わり1冊の本になった。著者とセレブ(人々に感動を与えるこの道のスペシャリスト)との対話は、まさに、キラキラ光る宝石箱である。私は、その箱のなかに、「可能性」という種を見つけた。そして、この種を育ててみようと思ふやうな気になった。この種は、やがて芽を出し、数年後にはきっと、大きな大きな夢の花を咲かせるに違いない。この本を読み終えたいま、そんなすがすがしい気持ちでいっぱいになっている。